

# 経営比較分析表（令和2年度決算）

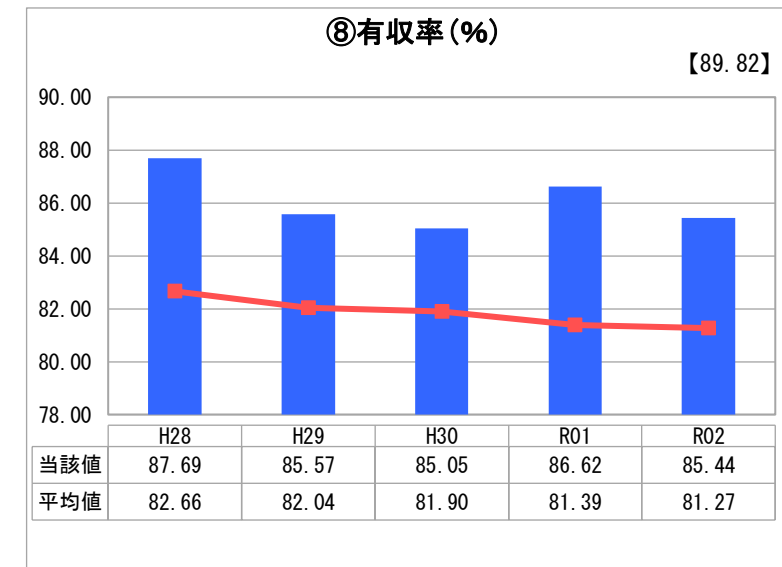
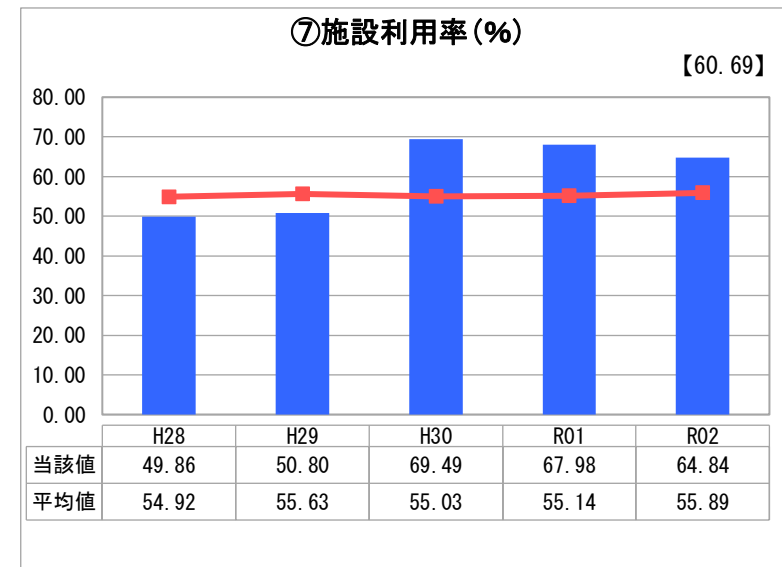
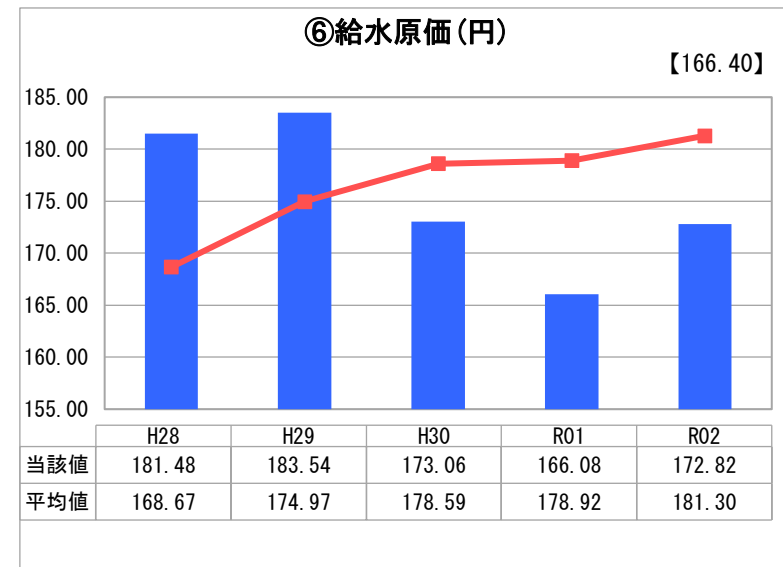
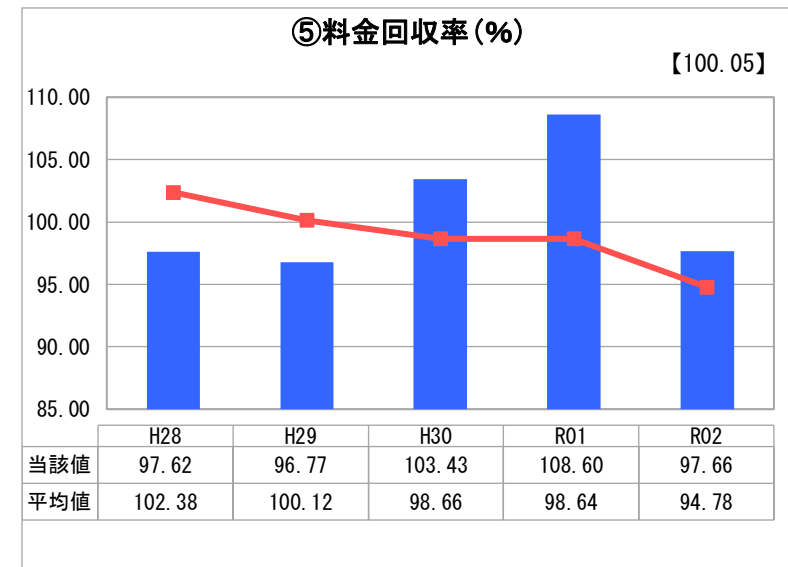
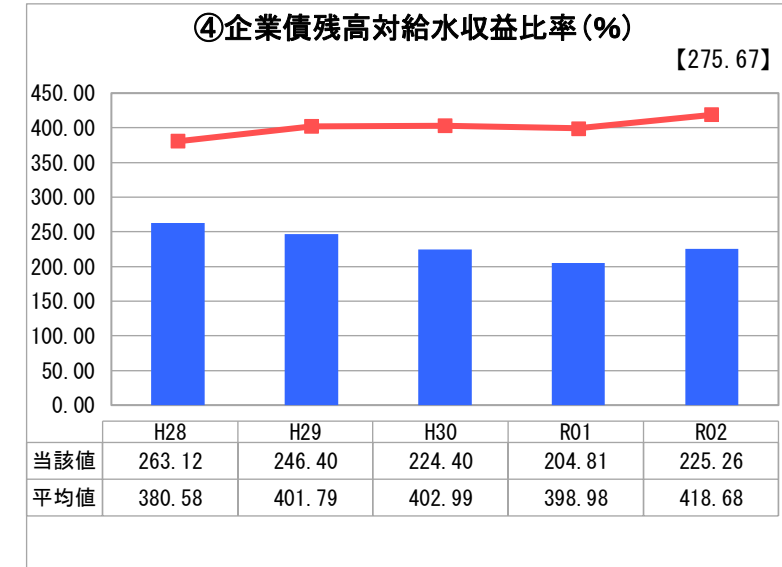
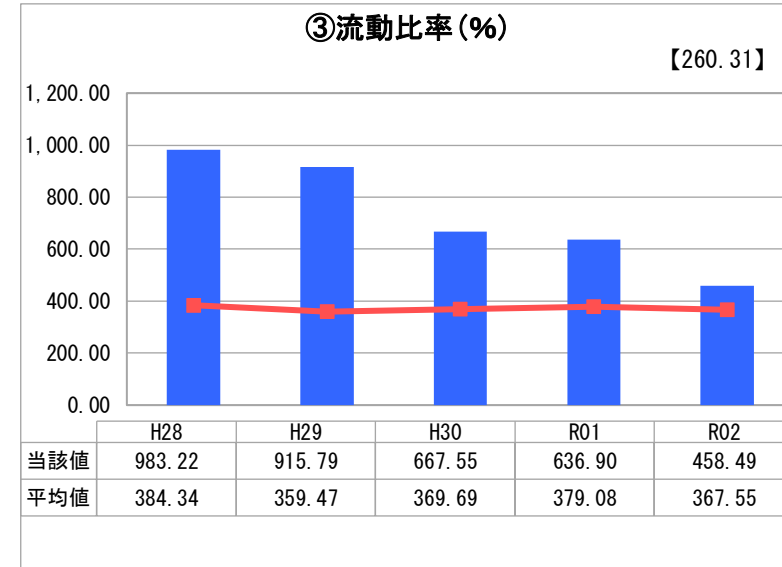
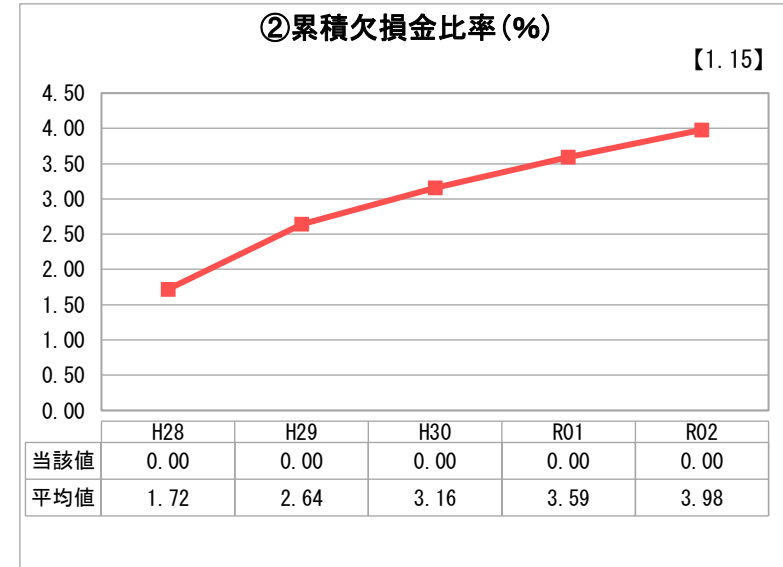
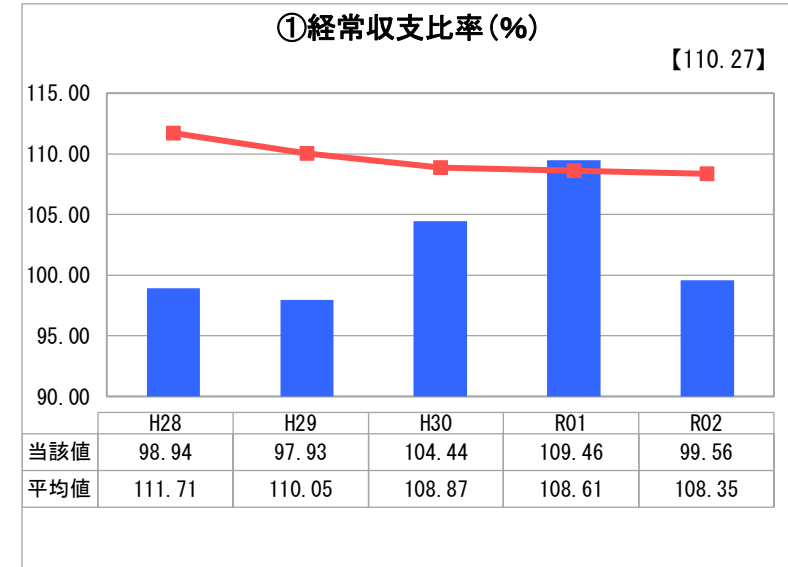
埼玉県 吉見町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A6	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)	
-	76.97	99.80	2,365	

人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
18,654	38.64	482.76
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
18,484	38.64	478.36

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	令和2年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

① 経常収支比率⑤ 料金回収率  
 経常収支比率と料金回収率は100%を下回っており、赤字が生じている。両比率が100%を下回った主な要因は、新型コロナウイルスの影響による大口の使用水量の減少や感染症に係る対策として水道基本料金を2か月分免除したことにより、給水収益が減少したためである。

③ 流動比率  
 100%を大きく上回っていることから、短期的な債務に対する支払い能力はあると言えるが、建設改良工事費等の増加により、現金等の流動資産が減少しているため下降傾向にある。

④ 企業債残高対給水収益比率  
 企業債未償還残高が減少したが、給水収益も減少したことから昨年よりも上昇となったが、類似団体と比較すると下回っている。この比率からは、設備投資の財源として企業債に依存することなく、内部留保資金とのバランスがとれていると言える。

⑥ 給水原価  
 有収水量の減少により、前年度と比較すると上昇しているが、類似団体と比較すると下回っている。

⑦ 施設利用率  
 施設利用率は、使用水量の減少により一日平均配水量が減少したため、利用率が低下している。

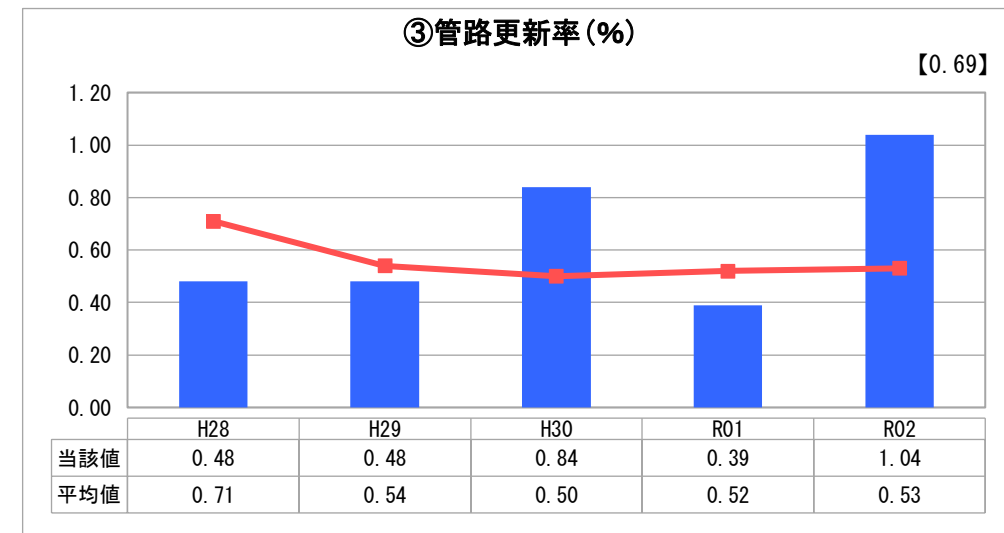
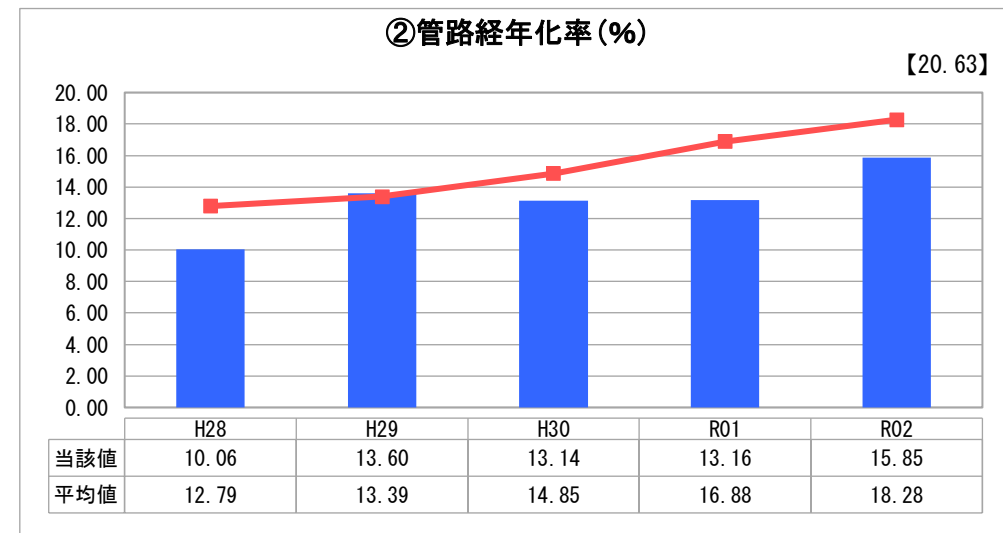
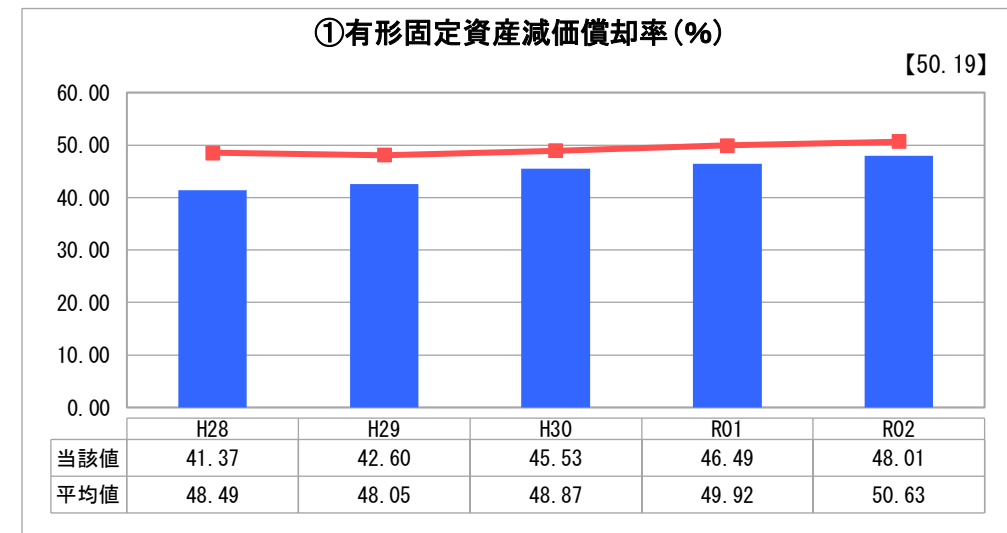
⑧ 有収率  
 有収率は、減少傾向にあり、漏水等の無効水量を減らし、有収率をより上げていくことが重要と考える。今後も継続して老朽管の更新及び漏水調査を実施する必要がある。

### 2. 老朽化の状況について

① 有形固定資産減価償却率  
 類似団体を下回っているが、緩やかに上昇している。今後も経年による施設全体の老朽化が進み、上昇する見込みである。

② 管路経年比率③ 管路更新率  
 水道ビジョン及び基本計画に基づき、老朽管及び耐震化の更新を進めている。今年度は、前年度と比較し更新距離は減少しており、管路経年比率は増加している。今後も老朽化が進みつつあるため、計画に基づき、継続して更新していく。

## 2. 老朽化の状況



## 全体総括

本年度は、新型コロナウイルスの影響により、大口企業の使用水量の減少や感染症に係る対策として水道基本料金を免除したことにより、給水収益が減少し、経常収支比率は赤字となったが、料金回収率については給水原価が供給単価を上回ったことから、給水に係る費用が給水収益以外で賄われていると言える。経営の健全性・効率性については、資金残高が減少しているため、財政基盤の強化に向け、将来を考慮した料金体系のあり方や料金水準を検証する必要がある。今後大口の使用水量の動向を注視し、企業債の借入れ、適切な施設の維持管理、施設規模の見直し等を検討していく。

今後も、本町の水道事業ビジョンに掲げる基本理念である「より安全・安心で しあわせを守る みんなの水道水」を目標に、安全な水道水と安定供給の確保のため、より一層の経営基盤の強化を図っていく。

# 経営比較分析表（令和2年度決算）

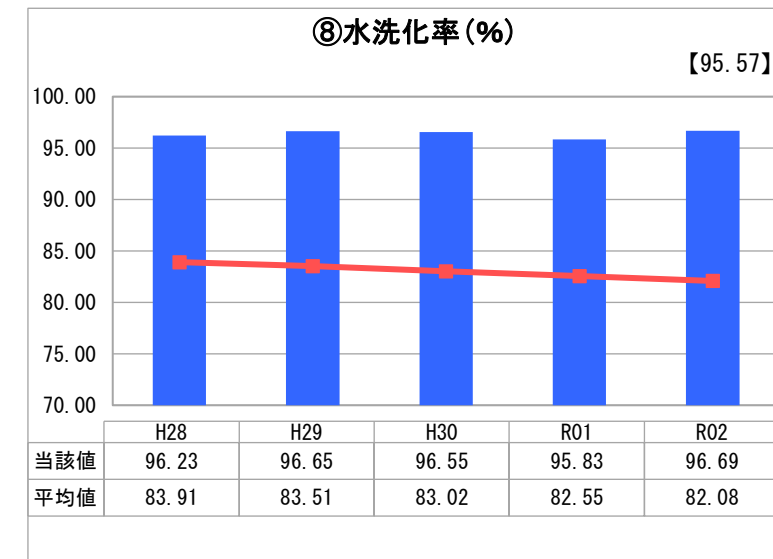
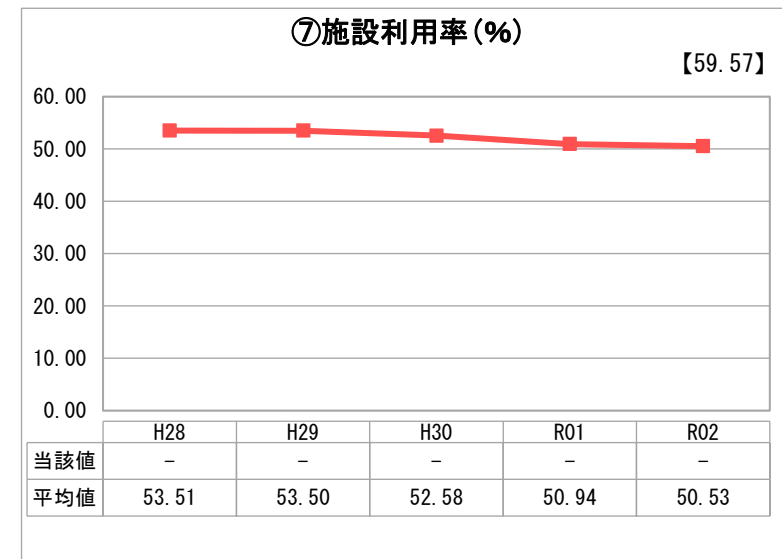
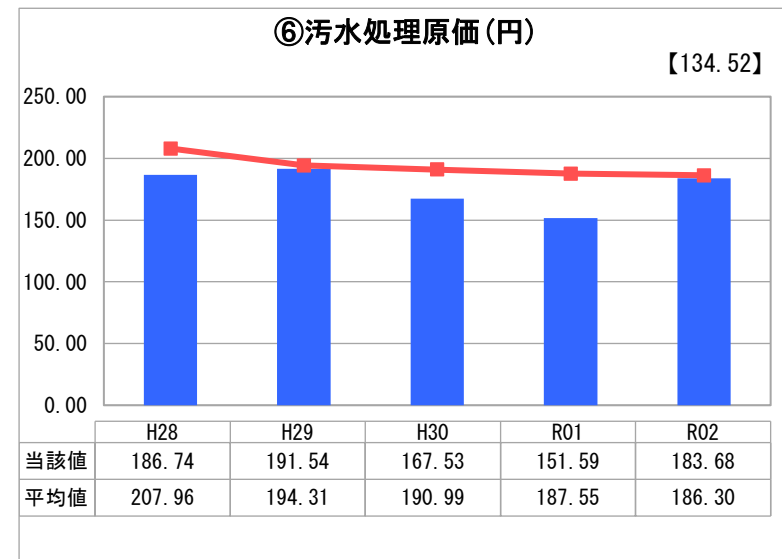
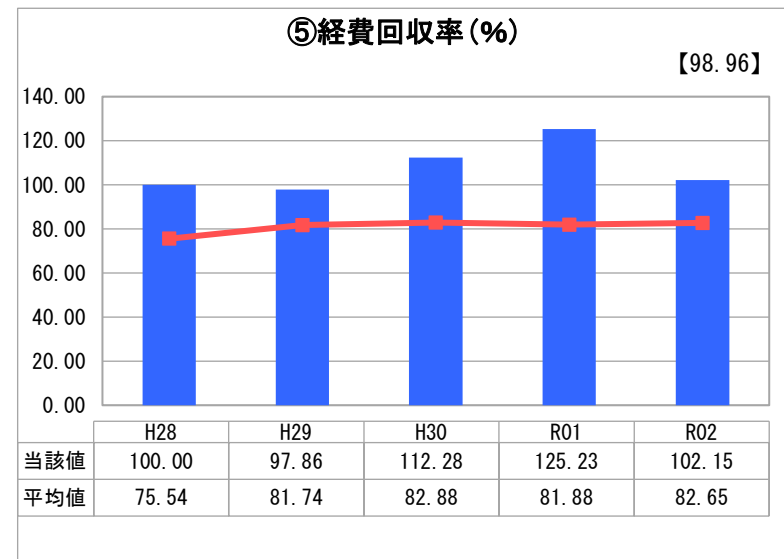
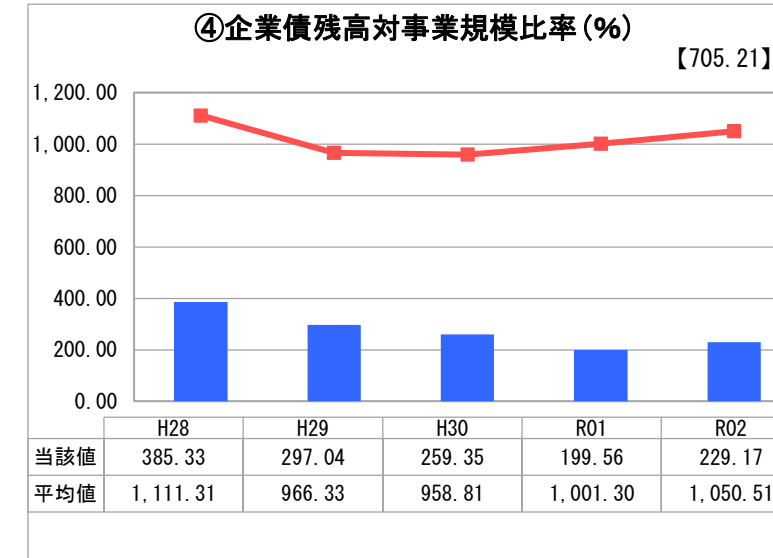
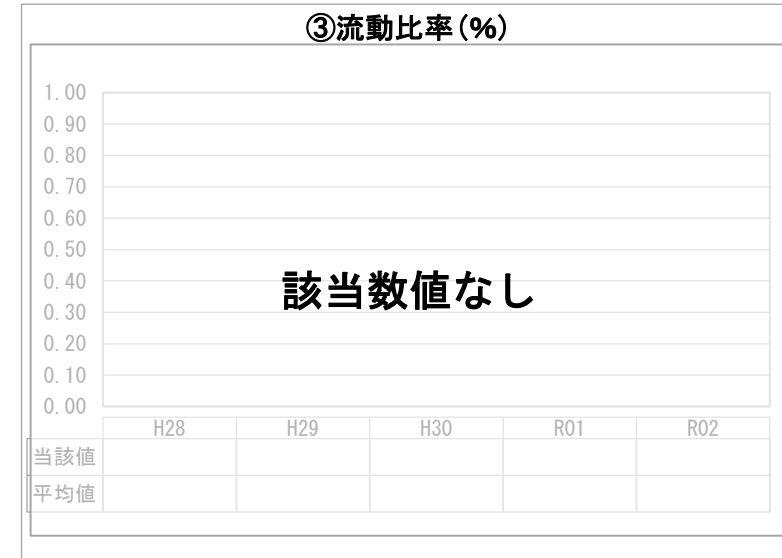
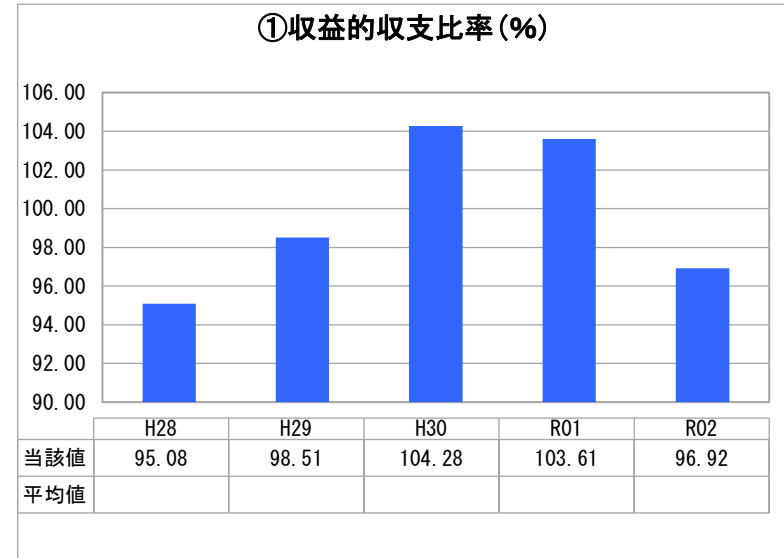
埼玉県 吉見町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	公共下水道	Cc2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	13.36	96.65	2,145

人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
18,654	38.64	482.76
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km <sup>2</sup> )	処理区域内人口密度(人/km <sup>2</sup> )
2,475	0.99	2,500.00

グラフ凡例	
■	当該団体値（当該値）
—	類似団体平均値（平均値）
[ ]	令和2年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 分析欄

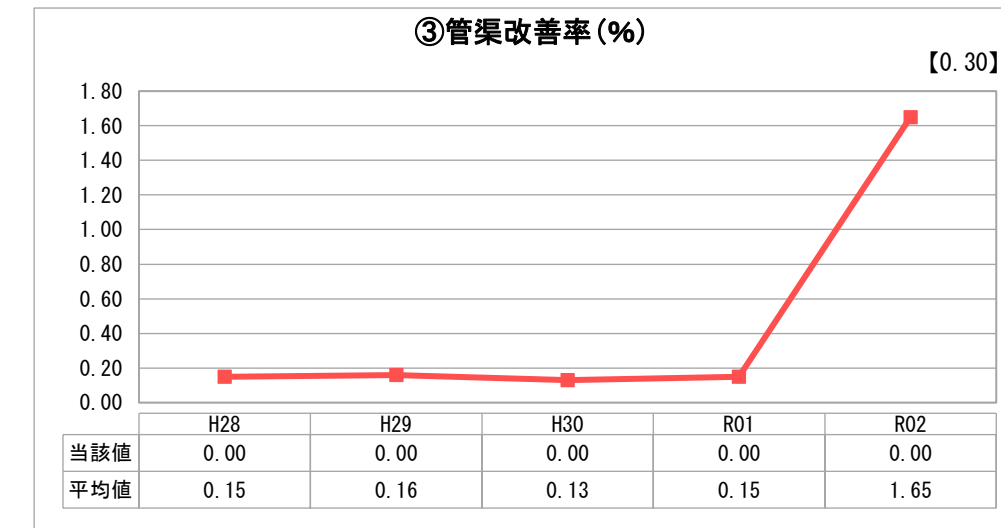
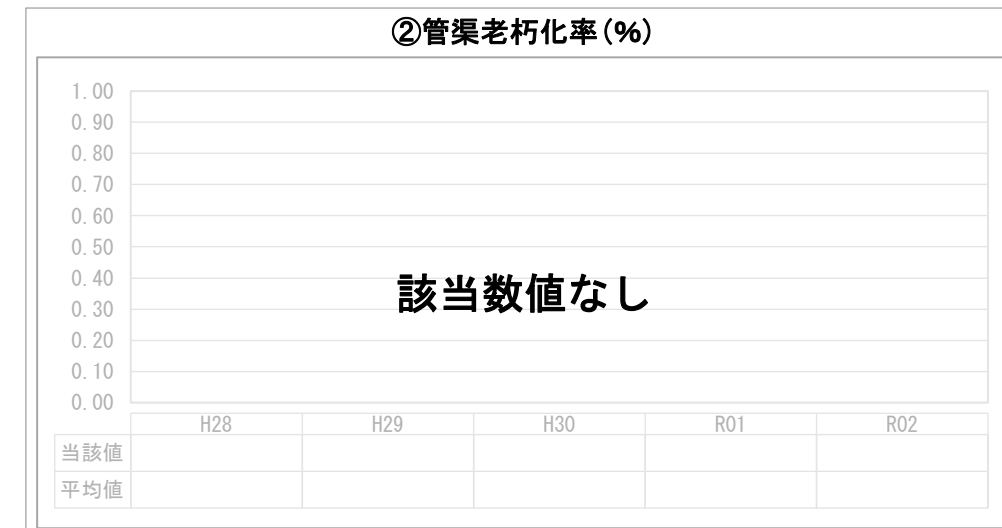
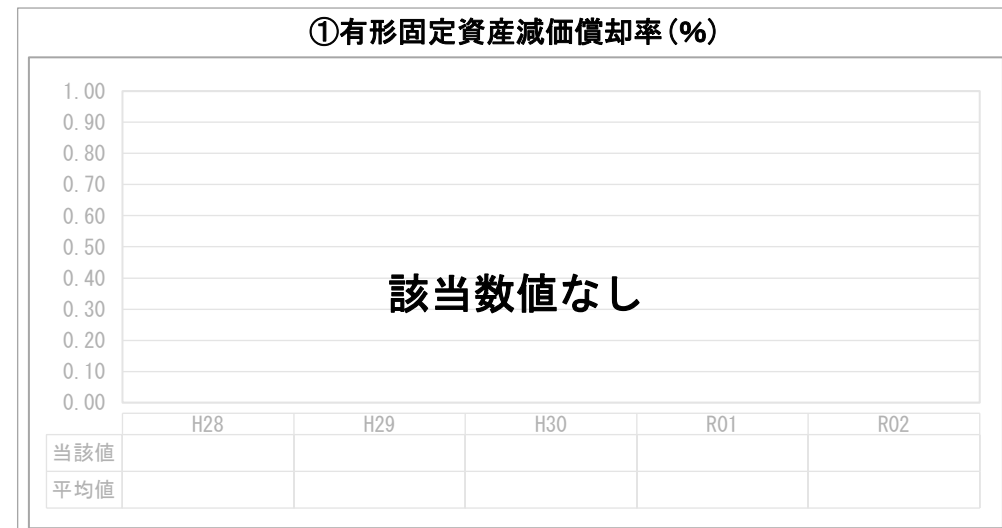
### 1. 経営の健全性・効率性について

- ①収益的収支比率  
比率が100%を下回った。これは主に下水道使用料の減少による。新型コロナウイルスの感染拡大により、大口使用者の使用量が減少したことによる。今後の経過を観察し、必要に応じて対策する。
- ④企業債残高対事業規模比率  
減少傾向にあったものの、令和2年度は増加に転じた。これは主に使用料収入の減少により、営業収益が下がったためである。
- ⑤経費回収率  
100%を超えているものの、増加傾向にあったものが令和2年度は減少に転じた。これは主に使用料収入の減少による。
- ⑥汚水処理原価  
減少傾向にあったが、増加に転じた。増加の要因は主に有収水量の減少である。減少の要因は①に記載のとおりである。
- ⑧水洗化率  
例年と同レベルで推移している。回覧及び戸別訪問により、接続率の向上を図っている。

### 2. 老朽化の状況について

現在のところ管渠等の老朽化は見られないが、20から30年後には管渠の老朽化が生じてくると思われる。これに備えて今後も経費節減に加え、計画的な施設の維持管理に努める。

## 2. 老朽化の状況



## 全体総括

使用量収入の減少により令和2年度は分析欄1のとおり、各指標に影響が生じた。今後も経費節減に加え、計画的な施設の維持管理に努め、効率的で安定的な経営を実施していく。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。

# 経営比較分析表（令和2年度決算）

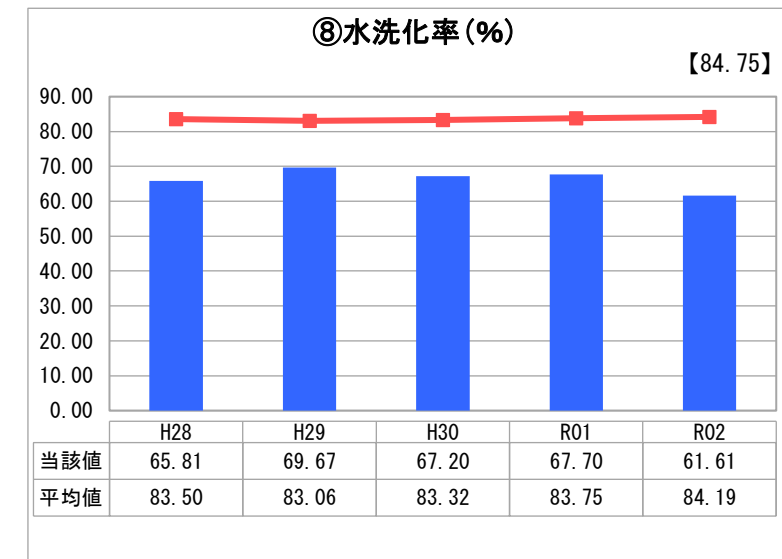
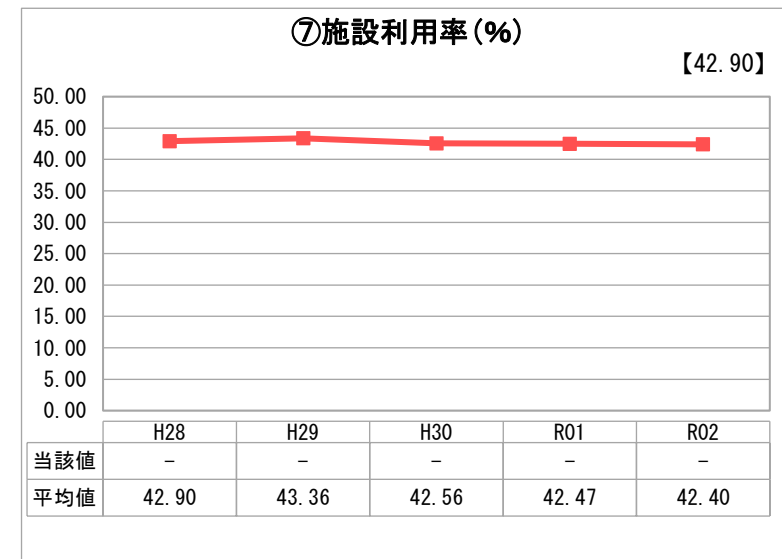
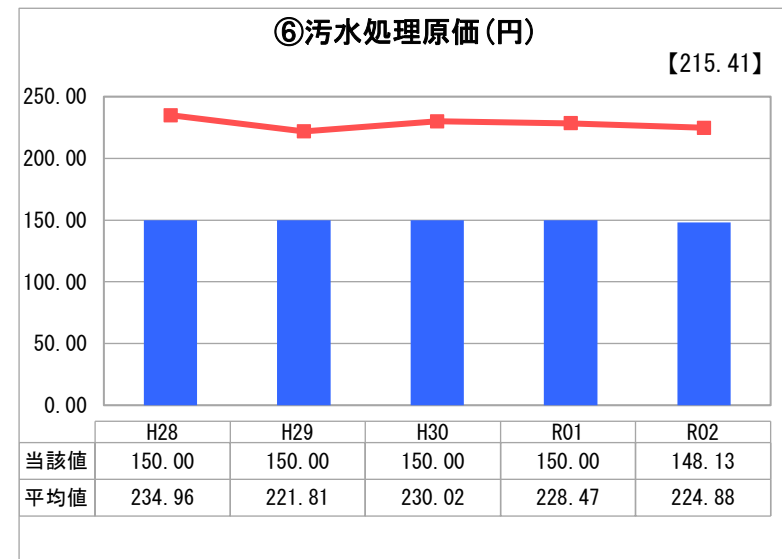
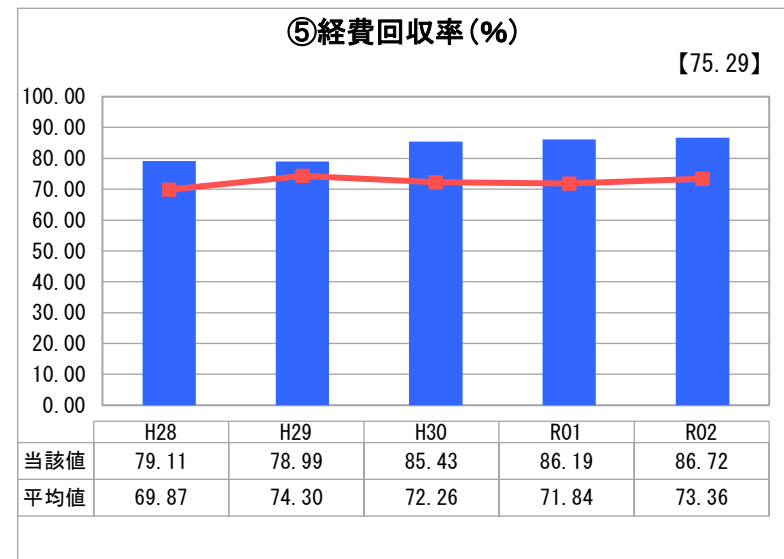
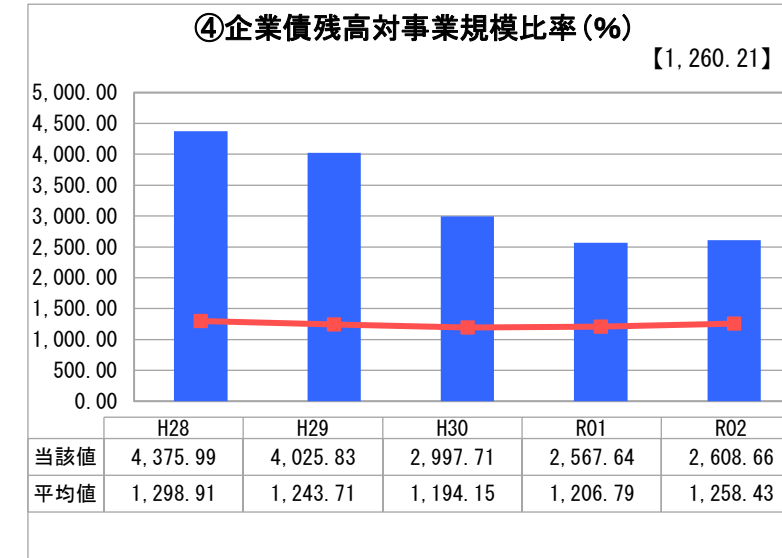
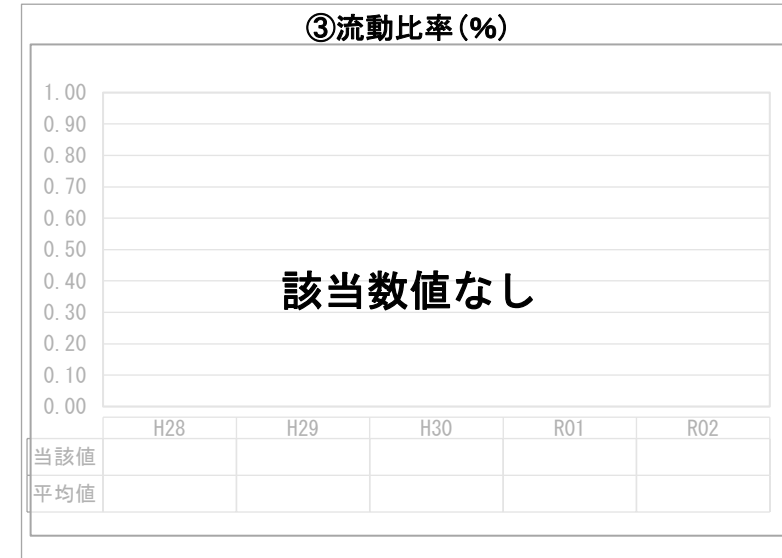
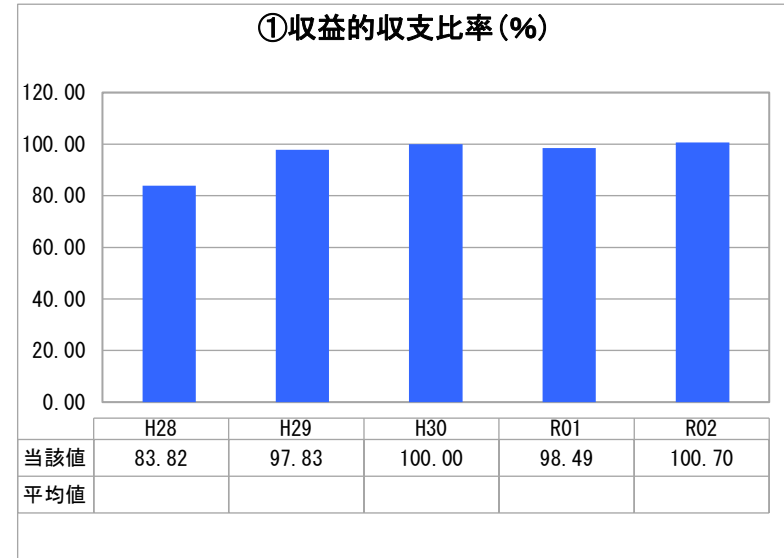
埼玉県 吉見町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	特定環境保全公共下水道	D2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	14.86	96.63	2,145

人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
18,654	38.64	482.76
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km <sup>2</sup> )	処理区域内人口密度(人/km <sup>2</sup> )
2,753	1.16	2,373.28

グラフ凡例	
■	当該団体値（当該値）
—	類似団体平均値（平均値）
[ ]	令和2年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 分析欄

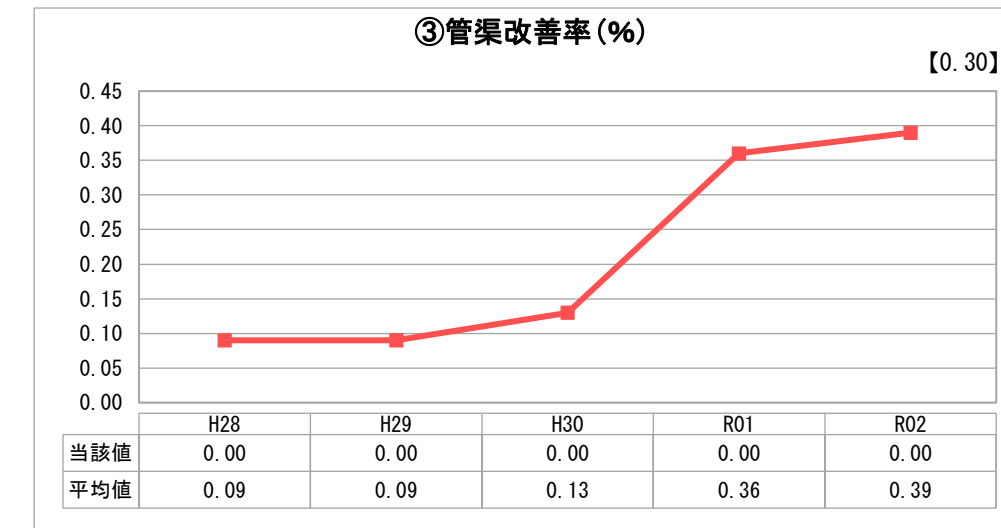
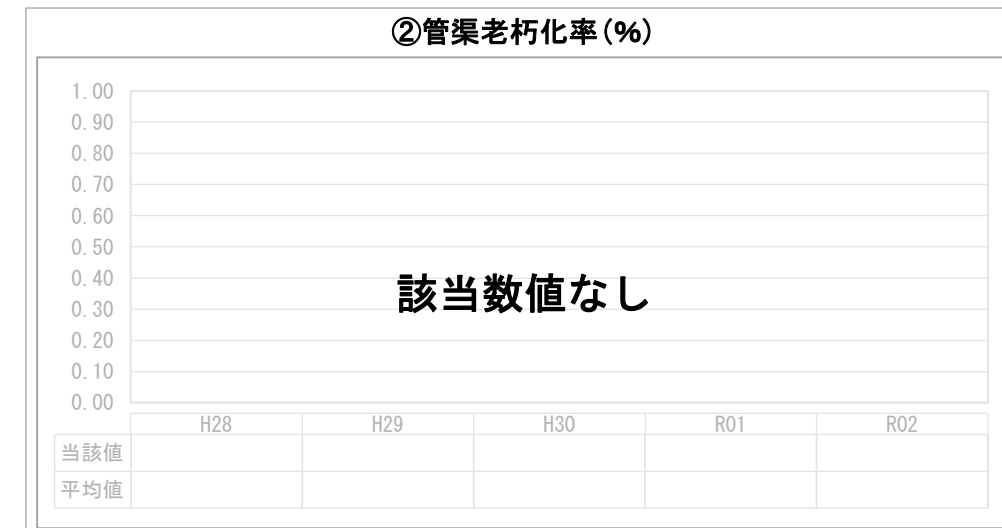
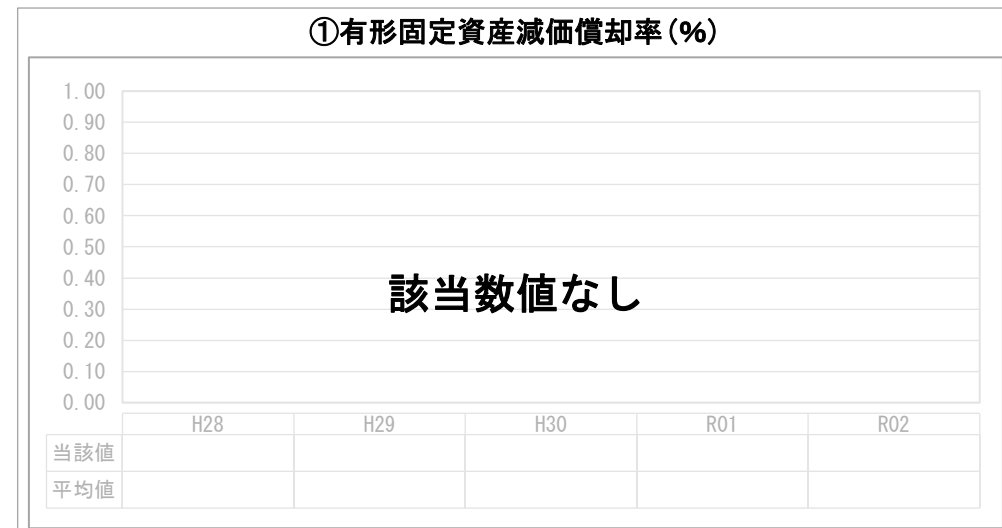
### 1. 経営の健全性・効率性について

- ①収益的収支比率  
流域下水道維持管理負担金減少による維持管理費の減少で総費用が減少したことにより、わずかに比率が上がり100%を超えた。
- ④企業債残高対事業規模比率  
減少傾向にあったものの、令和2年度はわずかに増加に転じた。これは主に一般会計負担額の減少によるものである。
- ⑤経費回収率  
使用料収入及び汚水処理費に大きな変化がなく、比率にほとんど変化がない。
- ⑥汚水処理原価  
ほぼ横ばいで推移している。令和2年度は有収水量の増加によりわずかに減少した。工場等の大口使用者が少なく、新型コロナウイルス感染症拡大防止として一般家庭の在宅時間が増したことが、有収水量の増加に繋がったと考えられる。
- ⑧水洗化率  
令和元年度と比べ6.09%減少した。これは、令和2年度に新規に供用開始した区域があるためである。

### 2. 老朽化の状況について

現在のところ管渠等の老朽化は見られないが、20から30年後には管渠の老朽化が生じてくると思われる。これに備えて今後も経費節減に加え、計画的な施設の維持管理に努める。

## 2. 老朽化の状況



## 全体総括

収益的収支比率、経費回収率及び汚水処理原価は昨年度とほぼ同じである。企業債残高対事業規模比率は昨年度と比べ微増した。経営状況の悪化は見られないが、今後も接続促進や経費節減を行い、計画的で安定的な経営を実施していく。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。



# 経営比較分析表（令和2年度決算）

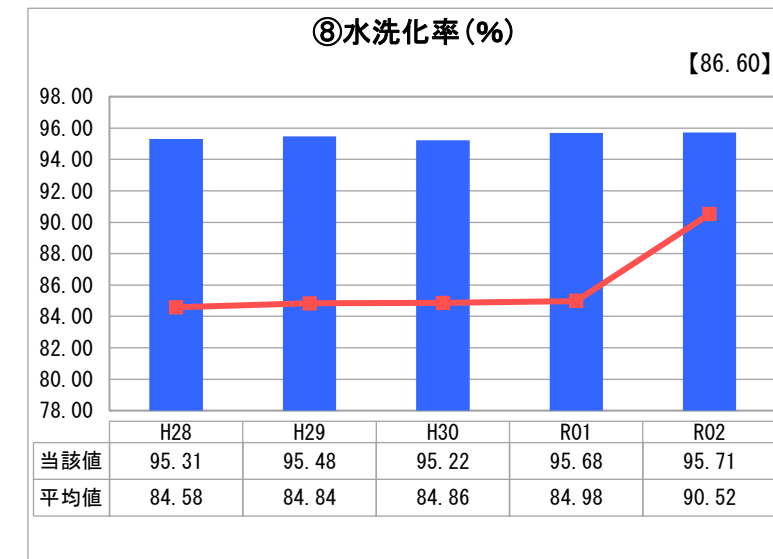
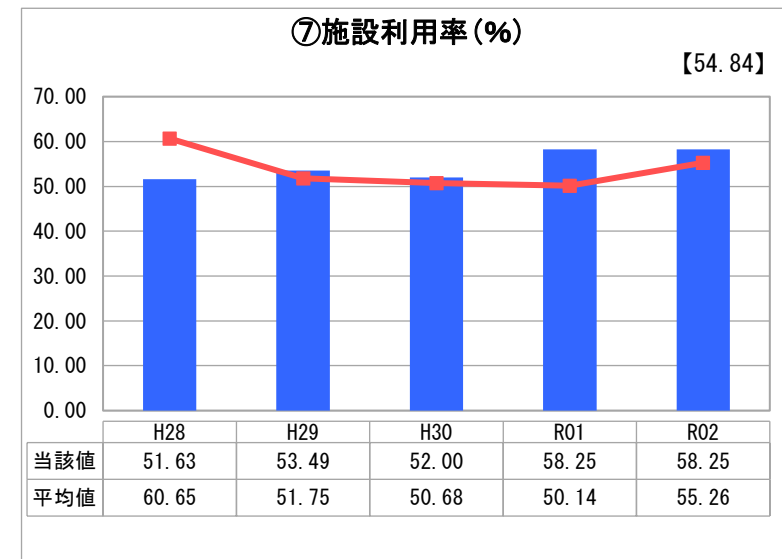
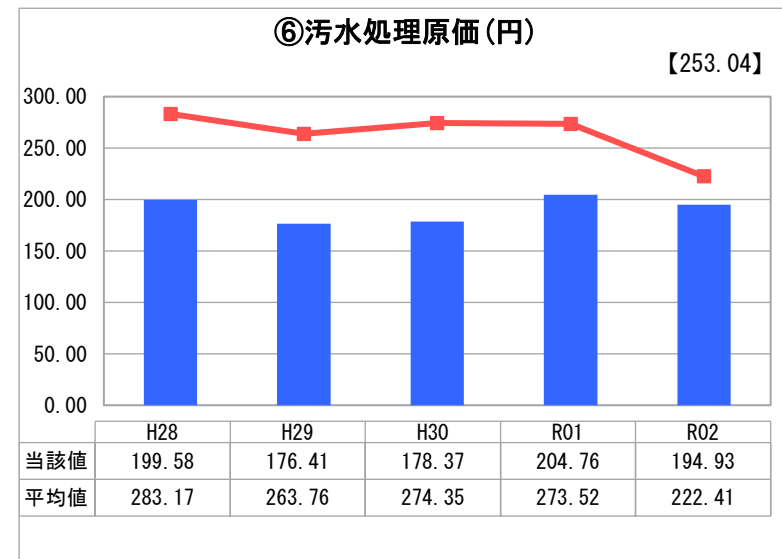
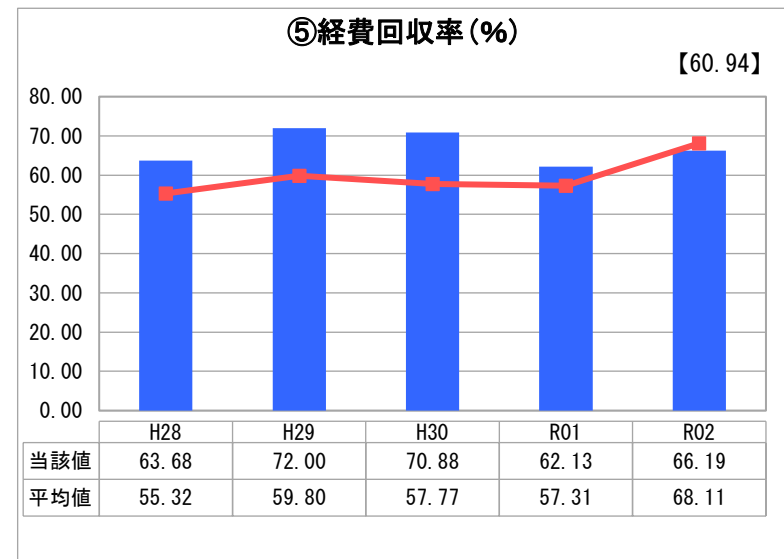
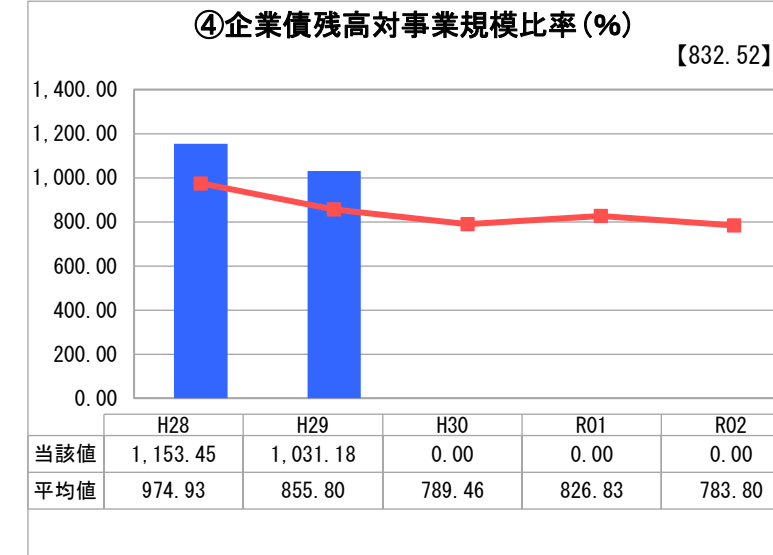
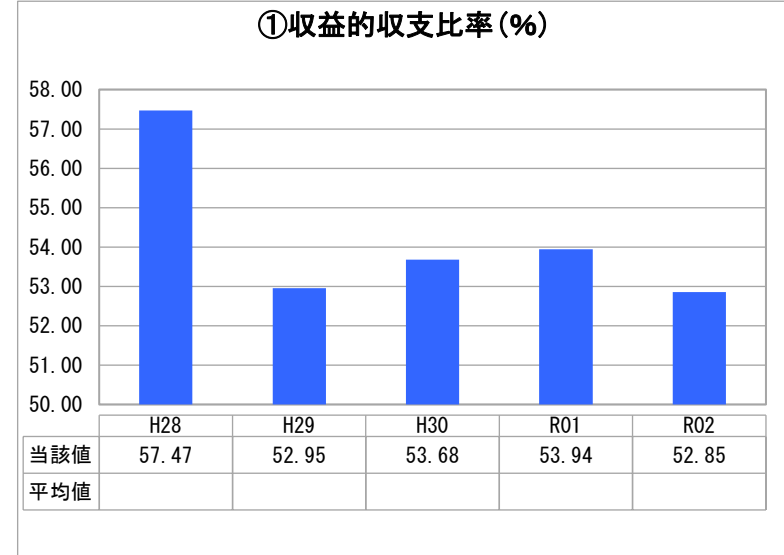
埼玉県 吉見町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	農業集落排水	F1	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	27.93	100.00	2,145

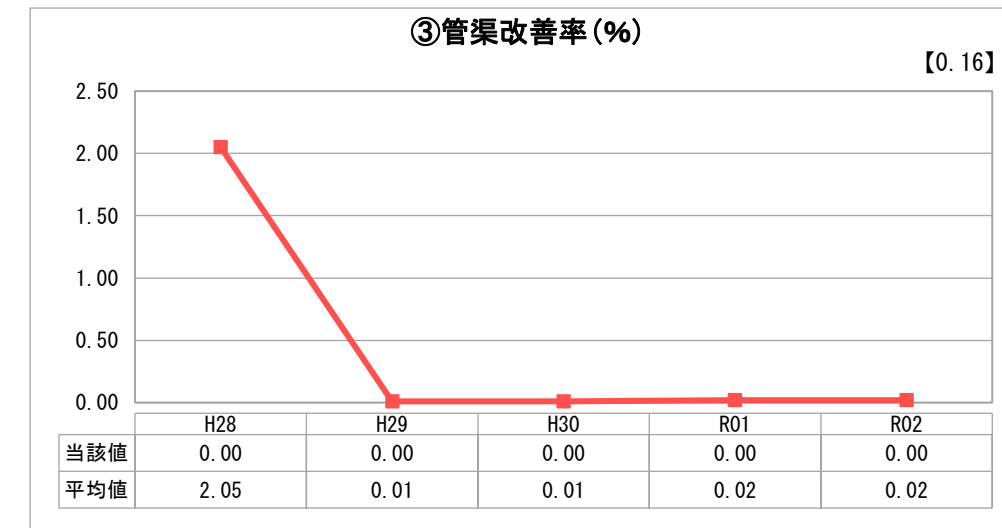
人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
18,654	38.64	482.76
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km <sup>2</sup> )	処理区域内人口密度(人/km <sup>2</sup> )
5,172	7.73	669.08

グラフ凡例	
■	当該団体値（当該値）
—	類似団体平均値（平均値）
[ ]	令和2年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

①収益的収支比率 地方債償還金が増加しているため、比率が上昇した。  
 ④企業債残高対事業規模比率 一般会計負担により随われている。  
 ⑤経費回収率 使用料収入の増加により比率が上昇した。使用料収入の増加は新型コロナウイルス感染症の影響で一般家庭での在宅時間が増加したことが要因と考えられる。  
 ⑥汚水処理原価 主に有収水量の増加により、減少した。有収水量の増加は⑤と同じ要因と考えられる。  
 ⑦施設利用率 全国平均・類似団体平均値を上回っている。これは水洗化率の高さによるものと思われる。数値は令和元年度と変わらない。  
 ⑧水洗化率 全国平均・類似団体平均値を上回っている。事業開始当初は、地元住民で構成される組合が宅内の排水設備等を一括して施工したため、ほとんどのお宅で接続済みとなっていることによる。数値は令和元年度とほぼ変わらない。

### 2. 老朽化の状況について

供用を開始してから30年を経過している区域があるため、最適整備構想等を策定し対応して行く予定である。

### 全体総括

各指標とも、全国平均、類似団体平均値により良いが、改善に向け、接続の推進を行っていく。今後も計画的に安定した事業運営ができるよう努めていく。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。

# 経営比較分析表（令和2年度決算）

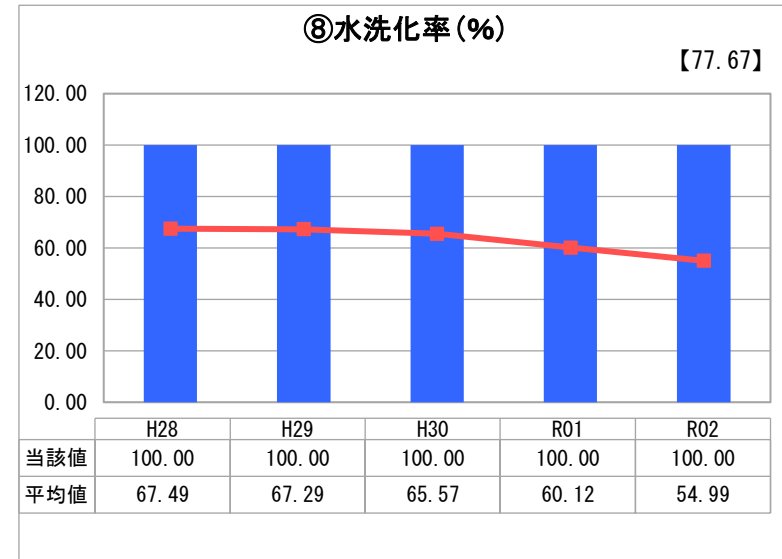
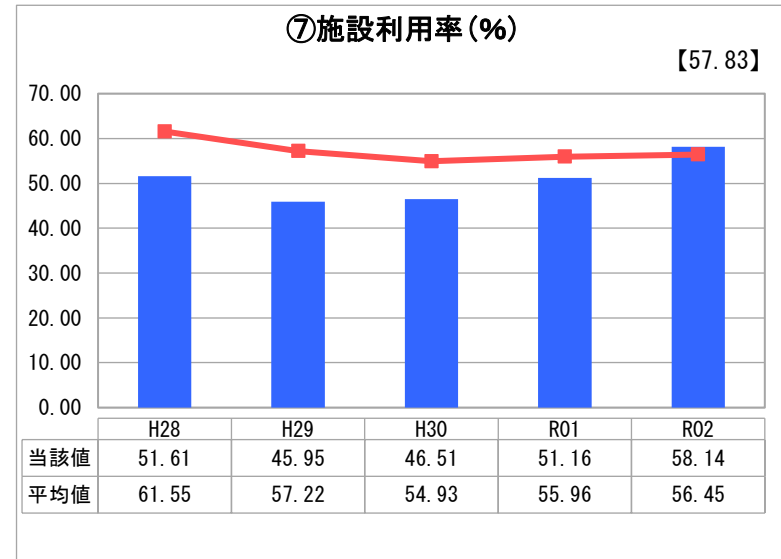
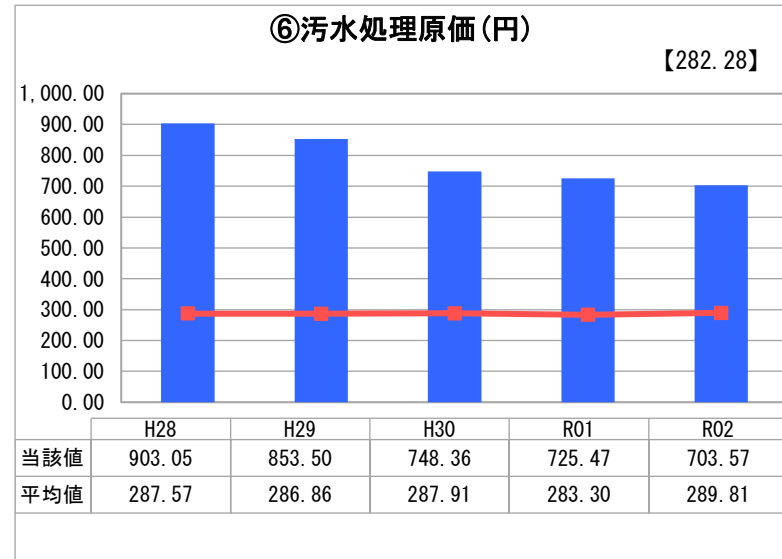
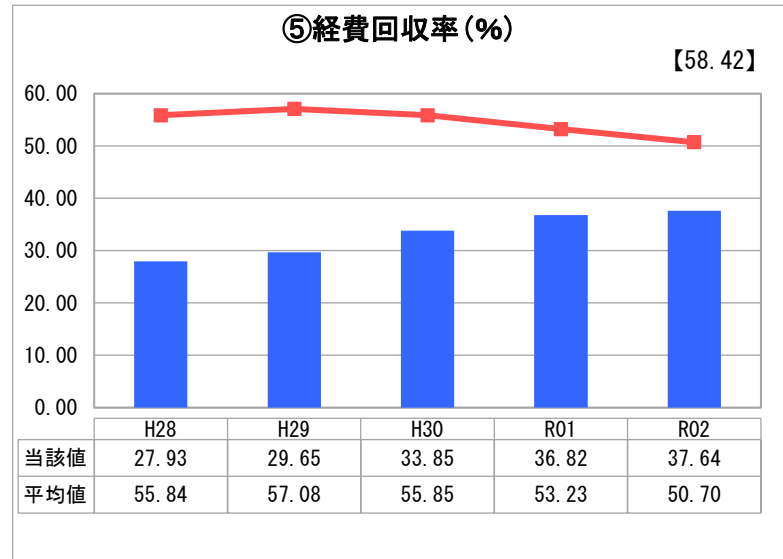
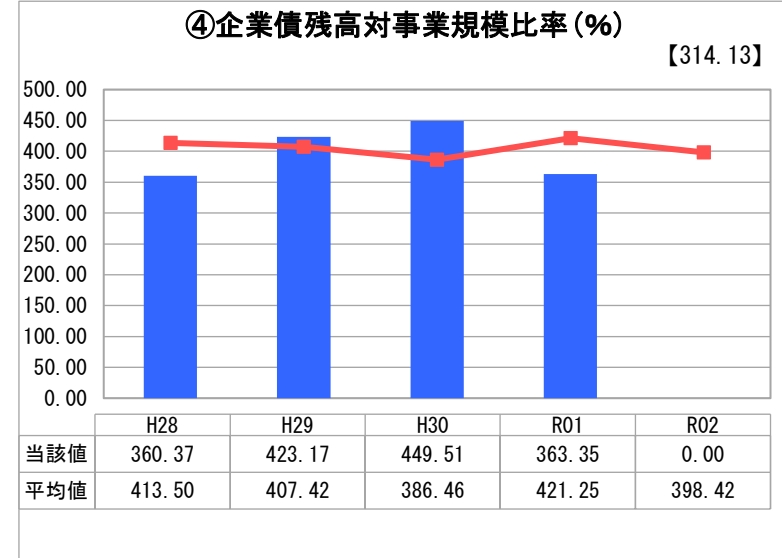
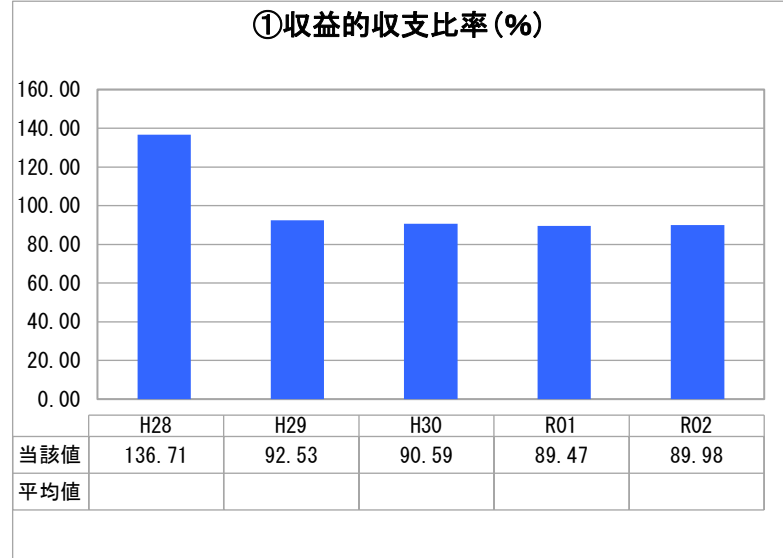
埼玉県 吉見町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	特定地域生活排水処理	K3	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	0.45	100.00	3,300

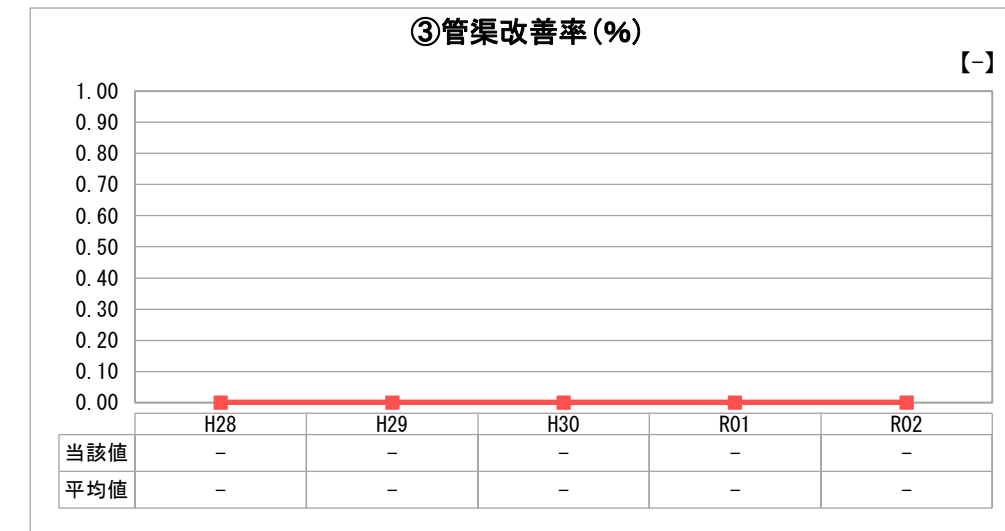
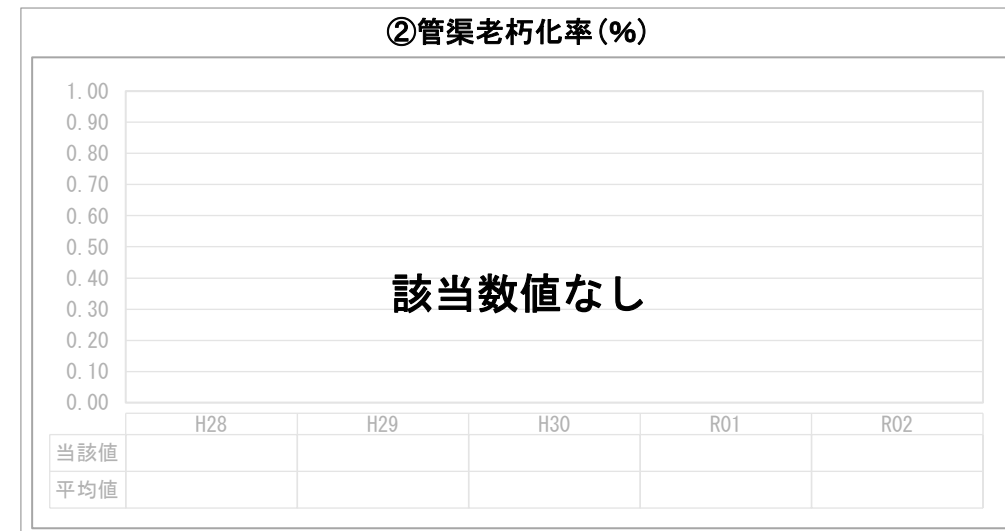
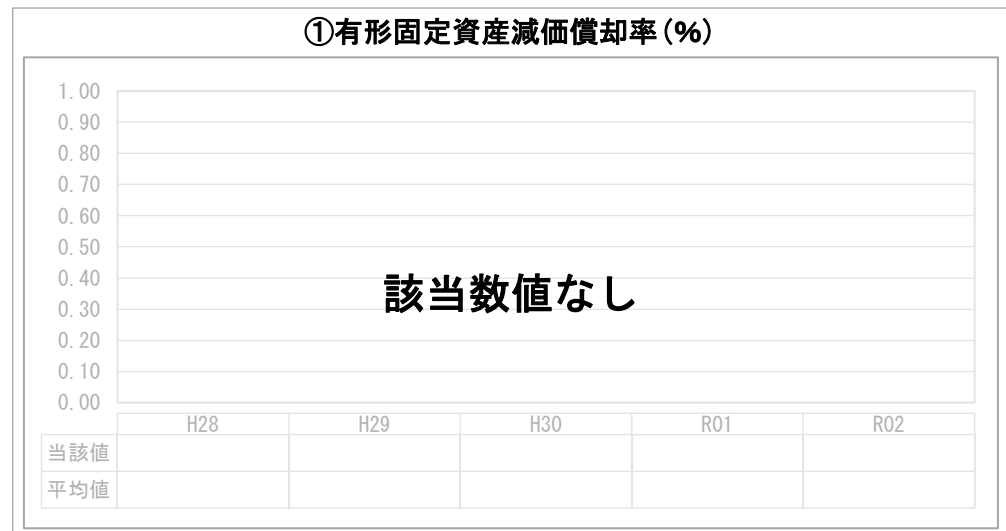
人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
18,654	38.64	482.76
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km <sup>2</sup> )	処理区域内人口密度(人/km <sup>2</sup> )
83	0.01	8,300.00

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
[ ]	令和2年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

- ①収益的収支比率  
平成29年度は、埼玉県浄化槽市町村整備型モデルタウン補助金がなくなったことで平成28年度と比較して総収益が減少した。平成29年度以降は大きな変化はなく推移している。今後20から30年後に浄化槽が耐用年数を経過し始めるので、維持管理費の増大を見据えて、経費の節減と計画的な維持管理がより一層必要となる。
- ④企業債残高対事業規模比率 一般会計負担により賸われている。
- ⑤経費回収率  
全国平均・類似団体平均値を下回っているが、浄化槽の設置基数の増加に伴い使用料が増加しているため上昇している。
- ⑥汚水処理原価  
全国平均・類似団体平均値を上回っているが、設置基数の増加及び新型コロナウイルス感染症の影響による在宅時間の増加により、有収水量が増えたため下降している。
- ⑦施設利用率  
設置基数が増えたこと及び新型コロナウイルス感染症の影響による在宅時間の増加による処理水量の増加により増加傾向にあり、令和2年度は全国平均・類似団体平均値を上回った。
- ⑧水洗化率  
設置後にすべて使用開始しているため、100%となっている。

### 2. 老朽化の状況について

市町村整備型浄化槽整備事業の開始から間もないため該当はないが、長期的には①に記載のとおり、経費の節減と計画的な維持管理が必要となる。

## 全体総括

供用開始間もないため、全国平均、類似団体平均値に満たない項目があるが、今後も計画的に安定した事業運営ができるよう努めていく。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。